

学校名: 中央区立日本橋小学校
 校長名: 児玉大祐
 所在地: 中央区日本橋人形町1-1-17
 児童数 390名 学級数 14学級 教員数 19名 職員数 20名

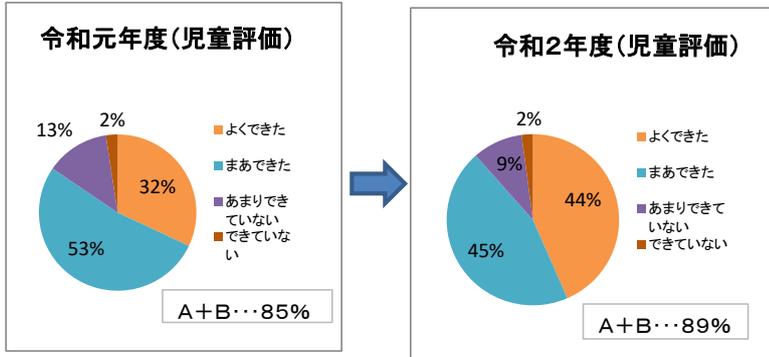
1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 分かる授業を追求する(楽しい学校)

評価項目 全ての児童が、主体的・対話的で深い学びを通して、学習したことが分かる楽しさ、自分の能力が伸びる喜びを実感できる「楽しい学校」作りを推進する。

- 評価指標
- ・児童は主体的に学習を行い、考える力を身につけているか。
 - ・児童は基礎的・基本的な学力を身に付け、「できた」「わかった」という充実感を感じているか。
 - ・児童は家庭学習において自主的に取り組む姿勢を身に付けているか。

令和2年度の達成状況の考察



児童が学校での学習に主体的に参加しているか自己評価したところ、前年度と比べて「よくできている」と回答した割合が12%増加した。同時に「あまりできていない」と評価する割合も4%減少した。ここまで児童の変容を見ると昨年度より前向きに自分の努力を評価する児童が増加したことが分かる。

反面、「できていない」と自己評価した児童の割合が2%と変わっていないことが課題である。学習に臨む際、児童が何を不安に感じているのか、早急に把握し、学習に対しての個別の支援方法を具体的にし、家庭学習での具体的な協力も求めていく必要がある。

令和2年度の取組状況

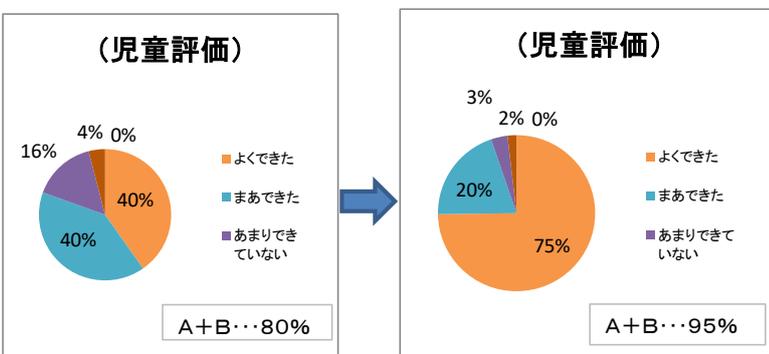
重点目標1の児童の評価は、担任や学年、専科教諭との関わり方が大きく影響している。教員は日常の学びでの励まし、個別の指導を意識して増やし、困っている様子があった児童の支援等の工夫を積極的に行った。その結果、児童のやる気と集中力が向上し、結果につながった。保護者の学校評価でも、「教員は、児童の努力を認めたり、励ましたりして温かく接している。」という項目で、「よく当てはまる」が半数を超える高評価をいただいた。もちろん、クラスごとに見ると差はあるが、教員が意識して児童と真正面に向き合い、努力したことが評価につながった。

重点目標2 授業規律・生活規律を徹底する(規律ある学校)

評価項目 児童一人一人が自己の個性や能力を最大限に発揮し、自信をもって学習・生活できるように基本的な生活習慣の定着を図り、規律ある学校生活を徹底する。

- 評価指標
- ・全ての児童が、ルールやきまりを理解し、自分たちで進んで守ろうとしているか。
 - ・教員は児童の人権を尊重し、児童の意識と行動力を高めることができていないか。
 - ・人権教育や道徳の授業などを通して、自他の生命や相手の気持ちを尊重し、共に学ぶ態度や実践力を身につけることができていないか。

令和2年度の達成状況の考察



児童が、学校で学習規律を守り、友達と仲良く生活しているか自己評価したところ、前年度と比べて「よくできている」と回答した割合が、35%増加した。同時に「あまりできていない」と評価する割合も14%減少した。

今年度は、コロナ禍の休校から感染症対策のもとで、新しい学校生活がスタートし、戸惑うことが多かった年度ともいえるが、児童は、自分の目標を明確にもち、昨年度より前向きに自分の努力を評価したことが分かる。昨年度より格段に「よくできた」と評価した学習規律の中に挨拶がある。例年より地域の方々やゲストティーチャーと触れ合うことは少なかったが、人々との関わりの中で学校生活を送っていることを実感できたことが成果につながった。

令和2年度の取組状況

重点目標2の児童の評価は、生活指導上の具体的な目標を達成できたか、具体的に自分の生活を振り返った。その目標は、「挨拶を元気にしたか」「学校や学級のために当番や係活動に進んで取り組んだか」「学習の用意や身の回りの整頓をきちんとしているか」等、友達や教職員との関わりの中で評価しやすいものである。何となく評価するのではなく、評価の根拠をはっきりもち、評価できることが学校生活への意欲向上につながった。児童の頑張りや教員にとっても嬉しいもので、積極的に保護者にも発信した。その結果が保護者の学校評価「教員は、保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している」という項目で「よく当てはまる」という評価を約半数分いただくことができた。

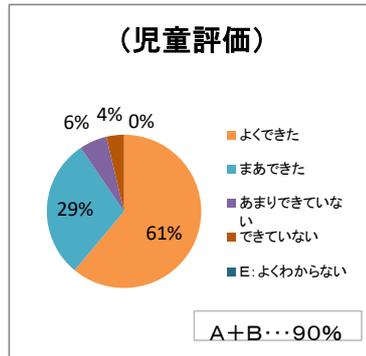
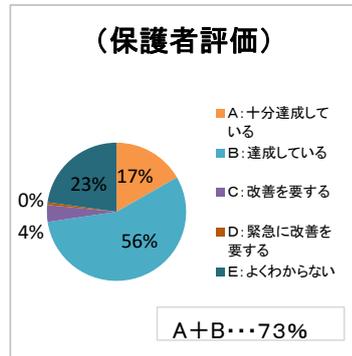
重点目標3 新しい校風を創造する(愛される学校)

評価項目 保護者や地域の思いや願いに寄り添い、共によりよい学校を創造していこうとする機運を醸成していく。

評価指標

- ・児童一人一人に学校の一員、地域の一員としての意識を高め、歴史と伝統ある学校・地域への愛情を深めているか。
- ・児童の学校生活や成長の様子、活動している姿など「日本橋小学校らしさ」を積極的に家庭や地域に発信しているか。
- ・地域教材の開発と地域人材の活用を通して、学校と地域との絆を深めているか。

令和2年度の達成状況の考察



今年度より重点目標3が、学校経営方針のもと新しく「新しい校風を創造する(愛される学校)」となった。重点目標2でも記載したとおり、コロナ禍で次々地域の行事や学校行事が中止となり、新しい学校生活の中で、例年より地域とのつながりを実感できなかったのではと保護者は評価したが、児童は「よくできた」と半数以上が評価している。児童の高評価には、今年度が開校30周年の節目の年であったことが大きな要因の一つといえる。年間を通して、開校30周年について祝福する機運を高められたことで、学年の発達に応じて地域の伝統校であると実感できたことが自己評価の高さにつながっている。

令和2年度の取組状況

教員が開校30周年の行事に向けて、地域や学校の歴史を知ることのできる掲示資料を作り、児童が地域や学校の歴史を知る環境を整えた。また、生活科や総合的な学習の時間において、今までの地域の学習を生かし、地域への思いを深めた学年もある。12月の30周年式典の日には、全学年が道徳の時間に愛校心を学ぶ工夫を行い、式典に参加していない1～5年生も地域と学校の歴史と伝統を実感することができた。例年通りの体験的な学習は出来なかった分、開校30周年の節目の年であったことが幸いし、児童にも教員にも愛校心が高まった。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートの回収率は85%と、多くの保護者の協力を得ることが出来た。今年度、コロナ禍での教育は例年通りに行かないことが多く、様々な行事や教育活動が中止、あるいは制限された状況であった。そのような中、日本橋小学校の教員は、「児童の努力を認め、励まし、温かく接している」「保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している」「学校での児童の様子を丁寧に保護者に説明している」の質問に90%以上の方がよく当てはまる、当てはまるとの評価を得た。これは、教員が令和元年度の学校評価を受けて、教員が保護者に不安な思いをさせない努力を続けた結果だと考える。反面、日本橋小学校の教員は、「児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。」「児童の学校生活や成長の様子、活動する姿など「日本橋小学校らしさ」を積極的に発信している」などの質問項目では肯定的な評価が80%を下回った。今後も全ての教員が1人1人の気持ちに寄り添い、小さな変化に気付くことができるよう、教師の対応力を高めるようにする。学校評価の結果をクラス、学年でも照らし合わせ、2学年会で話し合い、児童の情報共有や指導方法の相談を活発化させる。「日本橋小学校らしさ」とは何か、検討しながらより積極的に学校の情報を公開できるようにする。

3 今後の改善・方策

【重点目標1】に対して

- 全ての児童が、主体的・対話的で深い学びをとおして、学習したことが分かる楽しさ、自分の能力が伸びる喜びを実感できる学校を目指すとともに、全教職員が、児童の分かる楽しさ、伸びる喜びを共有し、自身の喜びとすることができる「分かる授業を追求」するため、以下の点に取り組んでいく。
- 全ての教員が、「学習内容、学習活動、学習評価」の3つの視点から、分かる・できる授業改善に努める。
- 全ての授業に、「見通しと振り返り」の学習活動を確実に位置付け、児童の主体的な学びを促進する。
- 全ての教科等において、「問題解決的な学習」を基本とした授業を展開し、児童の論理的・批判的な思考力の育成を図る。
- 全ての教員が、特別支援教育の視点を取り入れた誰にでも分かりやすい学習を目指し、ユニバーサルな授業づくりを追求する。
- 全ての教員が、「授業づくりと研究・修養は車の両輪」であるとの認識をもち、授業準備と指導法に関わる研究に積極的に取り組む機会を確保する。

【重点目標2】に対して

- 全ての児童が、児童一人一人が自己の個性や能力を最大限に発揮し、自信をもって学習・生活できるように基本的な生活習慣の定着を図り、規律ある学校生活を徹底するため、以下の点に取り組んでいく。
- 全ての教員が、「学校生活のきまり」を共通理解し、児童になぜそのルールが必要なのか考えさせる指導を行う。
- 全ての教員が、2学年会や生活指導夕会において、児童の情報を共有し、組織として学校全体で一貫性のある指導を行う。
- 全ての教員が、進んで挨拶する、時間を守る等の模範となる行動を示し、児童に生活習慣の大切さを実感させる指導を継続する。
- 全ての教員が、「いじめは絶対許さない」という考えのもと、児童のいじめの芽となる言動に素早く気づき、指導する。同時に、学校で行った指導とこれからの対応について保護者に連絡し、児童の成長を共に支える信頼関係を築く。

【重点目標3】に対して

- 保護者や地域の思いや願いに寄り添い、共によりよい学校を創造していこうとする機運を醸成していくため、以下の点に取り組んでいく。
- 今まで培った地域に学ぶ教育活動を、これからの学校生活の中でも積極的に実施できるよう年間計画を見直し、指導を工夫する。
- 地域で学ぶ学習の目的や工夫を積極的に保護者、地域に公開し、日本橋小学校ならではの教育に理解と協力を求める。
- 音楽科においては、邦楽鑑賞教室や日常の学習で地域の専門家の協力を仰ぎ、和楽器の演奏指導を受けることで、伝統文化教育を推進する。

【その他】

児童アンケートにおいて「学校に行くのが楽しいですか。」という問いに対して肯定的な回答をした児童が学年、クラスで結果のばらつきが大きく、全学年を合計すると78%となった。教員は、これからもクラスの児童1人1人が、分かる授業、楽しい授業を実践できるよう研鑽を積み必要がある。授業力向上に結びつくOJTの実施、区内外の研修への積極的な参加等の取組の充実を図るとともに、今後さらに、PTAと連携し、地域社会で活躍されている方や専門家を講師として招いての特別授業の実施、行事の工夫等により児童相互、児童と保護者、教職員の交流の充実を図っていく。